

2016 年度秋学期 授業アンケート「教員コメント」の「FD委員会総括」

FD 委員会

<座学>

1. 授業内容を「難しい」「やや難しい」と回答する学生が、教養、専門、語学に関係なく多いことが傾向としてあるようです（本学学生の特徴も関係する可能性もありますが）。しかし、ほとんどの授業において、学生は「満足」「ほぼ満足」と回答しており、概ねいずれの授業でも授業目的を達成できているのではないかと評価できます。特に、空欄を設けたレジュメ作成やパワーポイント資料等の配布物の見直し、板書の工夫、また学生の理解や興味を促す新聞記事やDVDなどの教材を補足的に活用している例も散見され、それら各教員の工夫が効果的であったと考えられます。
2. ただし、「この授業は難しかったですか、簡単でしたか」というアンケート項目に違和感を覚える非常勤の先生方も少なくないようでした。「簡単」がはたして望ましいのかということです。講義レベルを高めを設定したので、難しかったという回答が多かったのは狙い通りであったと分析している先生もおられました。
3. 講義形式で、大人数の授業が比較的多いという条件がある中で、学生の主体的な参加や学びを引き出す教育・指導方法の工夫も目立ちました。リアクションペーパーの導入による理解度の確認、学生の理解度に合わせた小テストの実施などです。また板書形式では、できるだけノートを取らせるように配布資料の余白にも配慮したりなどの細やかな配慮をする授業もありました。少人数の場合は講義内容をテーマに、学生同士のディスカッションや講義の合間に学生との意見交換を行ったり、グループワークや発表なども取り入れる授業があるなど、多くの工夫をしておられました。
4. ただし、予習・復習については（昨今の学生全般に当てはまる傾向だと考えられますが）、ほとんどしてこない場合が多いとの結果も窺えました。多くの先生方が、学生達の予習・復習の取り組みが少ないことを問題視され、これをどのように改善するかについて悩んでおられるようでした。予習・復習の回答が良好な科目は、アンケート全体の結果も良好のようで、予習・復習の促進が学生達の講義内容の理解を深め、これが講義の満足度を高めるといふ好循環を生んでいるようです。
5. 授業改善についての姿勢は本学教員全般に見られ、「アンケートで学生の要望を聞いている」、「授業内容を毎年見直している」などの回答が多く見られました。
6. 空調設備、授業設備の問題は今学期においてもやはり挙げられており、残念なことにあまり改善が進んでいないこともあるようです。学生・教員・事務との間でさらなる改善のための理解と努力が必要であると考えます。

<演習・実習系科目>

1. 全般的にいずれの科目でも学生の満足度は高い良好な評価を受けておられるようでした。

(公開用資料)

た。ただし、基礎演習科目では学生からの評価は高いというコメントが多い半面、学生の人数が多く演習の教育効果をあげるのが難しいとの意見も散見されました。

2. 合宿等のゼミ活動については学生の意欲付けに繋がっており、今後さらに充実させていきたいとのコメントがいくつか寄せられていました。また、そのための支援もしてほしいという要望もありました。
3. 専門演習については、輪読、フィールドワーク、実習など、ゼミによって多様な内容にはなっていますが、全般的に満足度は高く、学生の積極的な参加がみられるような授業進行になってきていると評価されます。他方で、1クラス当たりの学生数が多く発表・討論の時間が少なくなってしまうとのコメントもありました。また、専門演習Ⅱについては、就職活動とのバランスの難しさについての記述がありました。

<語学>

1. 語学においても「難しい」「やや難しい」と回答する学生が多いようでした。しかし、いずれの言語でも学生の授業満足度が高いようです。授業の目的にあわせた教材選択や、学生の興味を引くような題材選択などの成果だろうと考えられます。結果として、学生の満足度も高いようで、評価されている先生方が多いようでした。
2. 学生の予習・復習に関しては、特に語学の場合は重要とするコメントが多いですが、学生にあまり浸透しているとは言えず、全体的に今後の課題としてあげておられる先生が多いようでした。
3. 学生間の習熟度格差に対しては、説明や質問の時間を十分にとるなどの対応策がとられていました。
4. 非常勤講師の先生からは、受講生の間はかなり学力差が存在しているようで、アンケート結果の分析から授業レベルの設定の難しさを指摘しておられました。また、学力差があるためテキストの選定も難しいようで、ともかく学生の学力レベルをテキストレベルに近づける努力をするという前向きな考えを持たれている先生もおられました。
5. 再履修クラスは問題を抱えている学生が多いので、専任教員が担当する方が良いのではないかという意見がありました。

<総括>

1. 上記の各領域での教員コメントから、本学の教員が、専任・非常勤のいずれも各授業の特徴を踏まえ、学生の理解度、教育の質の向上を図るために、FD研修や本学・他学に限らず意見交換をして、さまざまな創意工夫と日常的に積極的に授業改善に取り組む様子が窺えました。
2. 本学の学生が真剣に取り組む学生が多いことへの高評価が散見されるとともに、アンケート結果を真摯に受け止め、改善努力を怠りなく取り組む本学教員の姿勢が鮮明になりました。授業改善に取り組んでおられる先生方のご努力に対して、FD委員会とし

ては敬意を表したく存じます。

3. アンケートについては一部の学生が記述している要求が全般的な外れの場合もありますし、授業進行や授業の運営姿勢を誤解していることもあります。そのような場合、アンケート記述から授業の改善点に気付くことも大切ですが、アンケート記述に引きずられすぎないことも大切なように存じます。もちろん、アンケートの改善は続けてまいります。完全なアンケートもございませんので、アンケートの記述だけでなく、各教員が毎期、自ら授業の回顧・反省することも重要でしょう。
4. 本学は教員一人あたりの学生数が極めて多く、質の高い教育を維持していくのはとても大変なことだと存じます。しかし、厳しい大学環境の中にあって、教育にも注力を惜しまない先生方のおかげで、本学の学生の理解度の向上と高い満足度につながってくれています。FD委員会として先生方の日々のご尽力に厚く感謝を申し上げます。

以上